

## 自己肯定感が低下しているAさん（小学校・中学年）

Aさんは字を書くことに時間がかかり、板書の書き写しやノート記入が遅れがちです。書く活動では、書いては消すことを繰り返し、時間切れになることもあります。そのため、発表の場面では自信がもてません。最近では登校を渋る日も出てきています。どのように配慮していけばよいのでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎字形に強いこだわりがあり、文字を書くことに時間がかかる
- ◎手先の不器用さ、目と手の協応がスムーズでなく、書字や作業に時間がかかる
- ◎語彙が不足しており、どのように自分の気持ちを表現してよいか分からない
- ◎頑張りたい気持ちはあるが、うまくいかない経験が続き、意欲や自己肯定感が低下している

#### 1 本人の考えを尊重する <①-1-1><①-2-3>

- 肯定的に言葉をかけ、本人の気持ちや考えを聞き、やり方の工夫を相談する。
- 書き方について自己決定する場を設定する。（こだわりを否定しない）

合理的配慮・具体的な支援（例）



鉛筆で書くだけでなく、「タブレットでフリック入力する」「キーボードで入力する」「音声入力する」「黒板を撮影する」など、記録をしたり文字で表現したりする手段は複数あります。

本人が取り組みやすいやり方、取り組みたいやり方について、相談しましょう。

## 2 学習にかかる負担を軽減する <①-1-1><①-1-2>

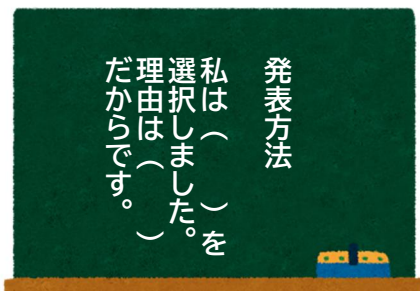
- 板書するものを手元に置いて視写できるようにする。
- 書く量を減らす。
- 鉛筆の持ち方や姿勢を正しくする。矯正グリップ等の補助具を使う。



黒板との距離が離れていると、視写する部分を捉えることが難しくなります。  
「手元にある」ことで、その負担が軽減され、学習に集中して取り組みやすくなります。

## 3 本人に合った方法で意思疎通を図る <①-1-1>

- 発表方法のパターンや順番を示す、図やイラスト・言葉の選択肢など視覚ツールを活用する。感想などは定型文を示すなど、考えや気持ちを表現しやすい方法を本人と相談する。



何をどのように話すのかが分かることで、話しやすくなることもあります。  
また、絵や写真を指差すことで発表しやすいこともあります。学級全体で共有することで、学習の分かりやすさにつなげることもできます。  
このことは、下記4につながります。

## 4 本人ができた実感できるように支援する <①-2-3>

- 1分だけ取り組む、選択肢を与える等、スモールステップで取り組む。
- その都度褒め、共に喜ぶことで達成感を味わうことができるようにする。
- 適切な支援をすることで、自分でできたという自信へとつなげる。

## 興味関心を優先してしまうBさん（小学校・中学年）

Bさんは授業中、自分の興味関心を優先し、折り紙や絵を描くなどの好きな活動が続けることがあります。また、掲示物に興味関心が移りやすく、集中できないこともあります。興味のある話題には積極的に発言しますが、書くことが苦手で板書を写すことには消極的です。どのように配慮していけばよいのでしょうか。

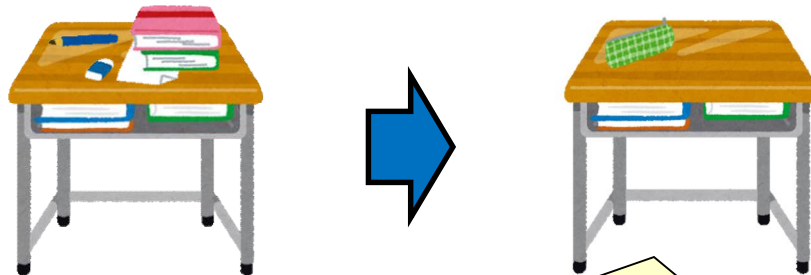
### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎過集中と注意が多方面に向くことの両面がある
- ◎活動への見通しをもちにくく、今何をする時間かを理解することが難しい
- ◎読み書きに困難さがあり、疲れやすい
- ◎取り組んでも「どうせできない」とあきらめてしまう

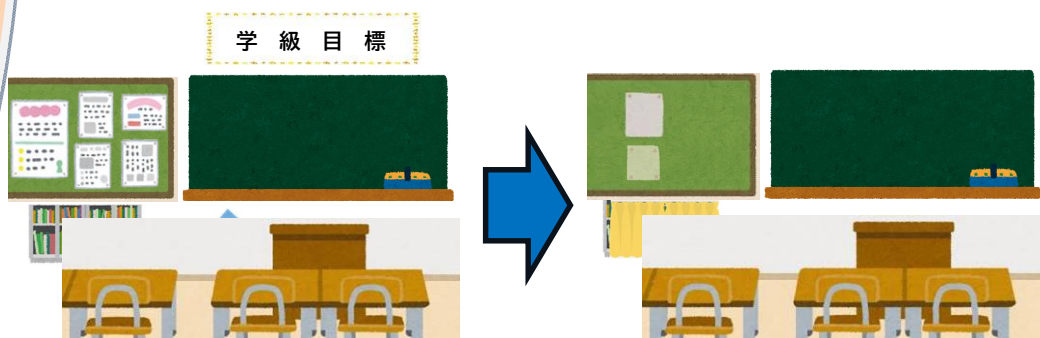
### 合理的配慮・具体的な支援（例）

#### 1 学習に集中しやすい教室環境を整える <③-1><③-2>

- 授業に必要なものは片付けてから授業に臨めるようにする。
- 棚に無地のカーテンをつけたり、掲示物を減らしたりして、刺激を少なくする。

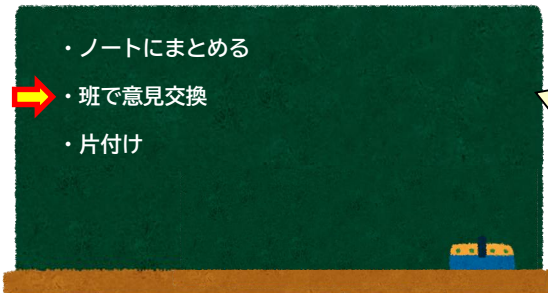


必要な物を口頭で伝えたり、板書で示したりしておく、自分から準備を進めやすくなります。



## 2 学習活動の見通しを示す <①-1-1>

- 活動の流れを箇条書きにして見えるところに示す。
- 活動が終わったら消したり、マークをつけたりして「今はここ」「次は何」が分かるようにする。



口頭（音）だけの伝え方では、情報が消えてしまいます。

情報を目に見える形で伝えることで、活動に見通しをもちやすくなります。

## 3 書字の量を調整し、負担を減らす <①-1-1>

- 書字の量を調整したワークシートを用意する。
- タブレット端末へタイピング入力や音声入力等を活用してノートテイクできるようにする。



書字の量的負担を軽減し、要点のみを記入できるプリントを用意することで、学習への集中力が高まりやすくなります。

学習問題  
どのような（ ）が  
わかりやすいだろうか。

## 4 達成感を味わえるようにする <①-1-1>

- 「取り組むことができたなら褒める」を繰り返すことで、達成感を味わえるようにする。

## テストのときに配慮を希望したいCさん（中学校）

読むことや周りのざわざわした音が苦手なCさん。中学校に入って最初の校内テストのときには落ち着かず、問題文を読むことに時間がかかり、どの教科も最後まで問題を解き終えることができませんでした。

学習において様々な困難さがあったことから病院を受診したところ、自閉スペクトラム症の診断を受けました。

本人及び保護者から、校内テストも含めた学習全般において、障害の特性に応じた配慮を受けたいと合理的配慮の申請がありました。どのような配慮が考えられるでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎周りの音や明るさなどの刺激に敏感に反応してしまい、集中力を持続することが難しい
- ◎視覚認知の特性から問題文の行を目で追うことに困難さがある

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

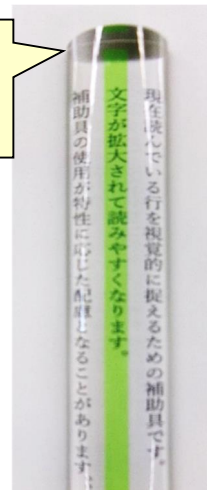
#### 1 文章を読みやすくする <①-2-1>

- 現在読んでいる行を視覚的に捉えるための補助具（スリット等）の使用を許可する。
- 文字を読みやすくする手立てを講じる（問題用紙を拡大コピーする、フォントの字体やサイズの変更、字間を広くする、背景を色付き用紙に変更するなど）。

#### <補助具の使用>



文字を拡大して読みやすくします。



## 2 解答方法等について配慮する <①-2-2>

- 介助者による問題文の代読、代筆を認める。
- マーク部分のチェック、マークシートの塗りつぶし等による回答を認める。
- 検査時間を延長する。



障害による困難さを根拠として、配慮事項を決定する。  
必要に応じて、別室受検を検討する。

## 3 集中できる環境を整える <①-2-2>

- 普段から使用しているイヤーマフの装着を認める。
- 明るさの刺激を調整するため、窓側ではなく、廊下側の座席とする。
- 指示を聞き取りやすい座席位置を本人と相談し、事前に試してみしてから決定する。

記載されているテスト時の合理的配慮は例です。  
個々の障害の状態に応じて必要な合理的配慮は異なります。



### <高等学校入学者選抜、特別支援学校入学者選考における特別配慮申請について>

千葉県では、障害があることにより特別な配慮が必要な志願者は、その内容について、在籍する中学校等を通じて出願を検討している高等学校長に相談することができます。実際の配慮内容は、中学校等の定期考査で現在受けている配慮を十分参考にしながら、学力検査等の公正さが保たれ、かつ、実施可能な範囲において、個別に決定します。

障害のある児童生徒が障害のない児童生徒と同様に、学んだ学習内容について、テストをとおして十分に力を発揮できているか、発揮するためにはどのような配慮が必要であるかを考えることが大切です。これまで校内で受けてきた配慮が参考とされますので、中学校等の定期テストで受けた配慮を個別の教育支援計画に記載し、支援方法を記録として残していくと良いでしょう。